

「秋の種2019」

アーティスト、キュレーター プロフィール ※作品画像は参考写真
(konya-gallery、Eureka、港民館、連携事業の順で)2019/9/20 最終更新

©konya-gallery

「ー やまぬ潜熱を食んで」

2019/11/16-26 (11/20休)

アーティスト

七瀬綾乃 NANA KARAGE Ayano



1987年 鹿児島県生まれ

2011年 広島市立大学芸術学研究科彫刻専攻修了

近年の主な展覧会に「七瀬綾乃 rainbows edge」(アートギャラリーミヤウチ、広島、2019)、「5RoomsⅡ ー けはいの純度」(神奈川県民ホールギャラリー、2018)、「アペルト08 七瀬綾乃」(金沢21世紀美術館長期インсталレーションルーム、石川、2018)、「個展:血のつながった雫」(広島芸術センター、2018)、「BankART Life V 観光 Under 35/2017 七瀬綾乃展」(BankART Studio NYK、横浜、2017)、「第10回shiseido art egg 七瀬綾乃展」(資生堂ギャラリー、東京、2016)、「対馬アートファンタジア」(対馬市、長崎、2014-2018)など。主な受賞にTokyo Midtown Award 2017準グランプリ(2017)、第10回資生堂art egg 賞(2016)、トーキョーワンダーウォール公募2014入選(2014)など。

参考作品写真キャプション



〈rainbows edgeⅢ〉2016 樟に着彩 510×1560×700mm 撮影:加藤 健



〈rainbows edgeドローイングⅨ〉2018
鉛筆、色鉛筆、アクリル・紙 360×250mm

近年、目覚ましい活躍で全国的に注目を集める若手彫刻家の七瀬綾乃。野菜や果物など植物の枯れゆく姿のなかに生の瞬きを捉え、自然界における生と死の距離感や存在のありかを深く見つめ続ける。今回が九州初の本格的な作品紹介となる。

キュレーター
原田 真紀
HARADA Maki
インディペンデントキュレーター



福岡出身、鹿児島在住。元田川市美術館学芸員（1996－2003）。のちに福岡アジア美術館、九州芸文館準備室嘱託学芸員を経て、現在フリーランスで活動中。

主な展覧会企画：「立石大河亜展」（1999）、「描かれた<筑豊>」（2002）、「はじまりはここから」（九州芸文館、2013）、博多阪急ART CUBE（2013～）、「“直観”のジオラマ展」（福岡市美術館、2014）他。「ママとこどものアートじかんプロジェクト」（2008～、福岡市、鹿児島市 他）、Asian Arts Air FUKUOKA（2016～、福岡市他）、2018年、分野を越えた学びの場「つくる学校」（鹿児島市）をメンバーと立ち上げ、同代表。市民目線からアートや公共性を考えるプロジェクトにも傾倒中。

©EUREKA エウレカ
「I'm here／私はここにいる」
2019/11/16-24（11/20休）

アーティスト
首藤 マヤ
SHUDO Maya



居住する福岡を拠点に、1970年代からグループ展と個展を並行させて継続的、先駆的に活動している、数少ない女性の現代美術家。布や植物、樹脂などを素材にした存在感の強いオブジェを制作し、さらにそれらを組み合わせた迫力のあるインスタレーション作品で知られる。

現代美術家・村上勝が主宰した、「個の解体と再構成」をテーマに掲げるグループ《Mixed Messages》の活動には、1990年代から村上の死を持って終了した2014年まで、ほぼすべてに参加。場の特性を生かし、空間を複数のアーティストで共有する規模の大きなプロジェクト例には、1992年「Mixed Messages ー山女魚釣り」(アートスペース獏・福岡市)、1993年「Mixed Messages ー金波銀波」(能古島いろり村・福岡市)、1993年「Mixed Messagesー劇薬」(N倉庫・福岡市)、1998年「Mixed Messages ーROOM」(福岡市美術館)、1998年「アートの現場・福岡 Vol,1 Mixed Messagesー温室」(福岡県立美術館)、2006年「アートの現場・福岡 Vol,16 Mixed Messagesー稜線の向こう」(福岡県立美術館)、2014年「Mixed Messagesー漕ぎ手たちの船」(アートスペース獏)などがある。

他にも、2002年には「The Langat- Noko Art Exchange Project : Off Walls Off Pedestals」(Akal diUlu・マレーシア)、2004年にはマレーシアの女性アーティストTeoh Joo Ngeeとの二人展「テオ & マヤ」(福岡アジア美術館・福岡市)などで意欲的な大作を発表。

その一方で1988年の初個展以降、2007年個展「運び去る時間」(福岡市美術館)、2010年個展「運び去る時間」(ギャラリーおいし・福岡市)、2013年個展「時の破片」(ギャラリーおいし)など数年おきに密度の高い発表を行い、2019年には12回目の個展「運び去る時間」(アートスペース獏)を開催した。

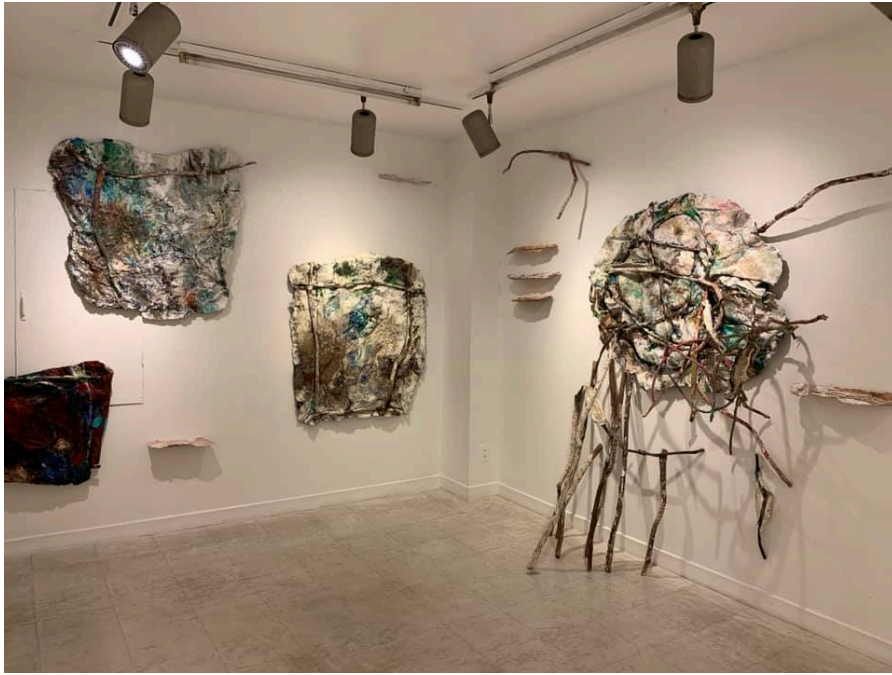
<参考画像>



せふりの杜現代アート展(福岡市立背振少年自然の家、2011年) *タイトルなし



「首藤マヤ展 一時の破片」(2013年、ギャラリーおいし・福岡市)



「首藤マヤ展一運び去る時間」(2019年、アーツスペース猿)

キュレーター
川浪 千鶴
KAWANAMI Chizuru



福岡市在住。1981年に福岡県立美術館学芸員となり、福岡県立美術館学芸課長ののち、2011年から2018年まで高知県立美術館企画監兼学芸課長、石元泰博フォトセンター長を務めた。現在はインディペンデント・キュレーター。専門は日本の戦後から現代の美術、美術館教育、ミュージアム・マネジメント。主な企画展＝「アートの実験・福岡」シリーズ(1998～2009)、「菊畑茂久馬と〈物〉語るオブジェ」展(2008)ほか。主なマネジメント担当企画展＝「大絵金展極彩の闇」(2012)、「岡上淑子コラージュ展はるかな旅」(2018)など。地域とアートと美術館をテーマに、非常勤講師を務めるかたわら、地元福岡のアートシーンをサポートするプロジェクトなどを手がけている。

アーティスト
天野百恵
AMANO Moe



1982年福岡県福岡市生まれ
2004年九州産業大学芸術学部美術学科卒業

2010年の出産を期に、クリエイティブな暮らし方を考える活動を開始する。2017年に糸島の古民家「くるくるハイツ」を拠点として子どもと3人で暮らし始め、“開かれた田舎の家”をテーマに人々を巻き込んだ場づくりなどクリエイティブな活動を展開。

・展覧会歴

〈個展〉

2011年「空を集める -seek the sky-」(うめぞのCAFE&GALLERY／京都)
2010年「かすみつつ やわらかい 雨」(ギャラリー16／京都)
2010年「amano moe iro iro」(Halo Galo／京都)
2007年「invisible animals」(CAPHOUSE 山側ギャラリー／神戸)
2005年「Like a smoke lings」(GALLERY ANTENNA／京都)
2005年「scape」(ギャラリーそわか／京都)
2004年「AT HOME」(cafeDESSERT DINER／福岡)

〈グループ展〉

2018年「藝術生活宣言ーだって楽しいんだもん！」(九州芸文館／福岡)
2013年「胎内巡りと画賊たち」(京都伝統工芸館／京都)
2011年「わざぜミ2010 報告展」(京都芸術センター大広間／京都)
2011年「激凸展」(unseal contemporary／東京)
2010年「ねこぴりターンズ」(ARTBASE88／福岡)
2009年「10×10」(trance pop gallery／京都)
2009年「After School 放課後の展覧会」(元立誠小学校／京都)
2009年「見えない未来に殴り込め」(アートスペース嵯峨／京都)
2008年「通りと広場《トランジット》」(ギャラリーアトリエ／福岡)
2008年 PRAHA Project(アーティスト・イン・レジデンス／札幌)
2008年 GEISAI(museum2／東京)
2007年「福岡アート・ミニコレクション」(ギャラリーアトリエ／福岡)

2007年「ねこび展」(アートアパート88／福岡)
2003年「RoomRoom Exhibition」(ギャラリーレコルテ／福岡)
2003年「WALD GRAPH5」(モダンアートバンクWALD／福岡)
2002年「誤個展」(福岡市美術館市民ギャラリー)

〈その他〉

TEDxFukuoka2018“INFINITE DIVERSITY”登壇

ARTS PROJECT SCHOOLサミット2019審査員特別賞(日比野克彦)

<http://moeama.net/>

〈参考画像〉



《くるくるちくこ》日用品、廃材/サイズ可変 2018



「くるくるハイツ」外観



「くるくるハイツ」で “のイヘ”ント風景 2017

キュレーター
関岡 絵梨花
SEKIOKA Erika



インディペンデント・キュレーター／福岡県文化振興課学芸員。九州産業大学美術館学芸員（2010-13）を経て、2013年より現職。主に九州芸文館にて『うつろうかたち とけあうことば』（2014）、『土門拳の古寺巡礼』（2015）、『美術×音楽』（2016）、『感性の生まれいづるところ』『生誕220年 広重展』（2017）、『藝術生活宣言—だって楽しいんだもん！』『ちっこびより』『手塚治虫展』（2018）など、福岡県主催の美術展企画を担当。その他『MEIJIKANアーティスト・イン・レジデンス』『久留米市文化センター アートフェスティバル』関連プロジェクト（2019）など。『ちくごアートファーム計画2019 ココロに効くアート～美はどこから来るのか』（2019）主担当。

アーティスト
池田 ひとみ
IKEDA Hitomi



毛糸や刺繍糸という自らに身近な素材による繊細な編み目の連なりを展開させ「いつもとは違う眺め」を生み出す。別府(大分県)や浜松(静岡県)など各地で制作に取り組んでいる。

1983年 長崎県佐世保市生まれ
2006年 早稲田大学第一文学部卒

展覧会歴

[個展]

2019「大きな編み目と小さな編み目」(ヴァルト アート スタジオ/福岡)
2019「ねてもさめても」(鴨江アートセンター/浜松)
2013「思考の停滞をなぞる」(ギャラリー KOGA /佐世保)
2012「編み目に風留まる」(cafe gallery CUE CAFE+/別府)
2009「毛糸のむだづかい」(アートスペースアブラウリ/中野)

[主なグループ展・イベント展示]

2018「博多阪急7周年 アートボディーギャラリー展 」(博多阪急)
「ACRYLIC BOX Exhibition Vol.9 」(WALD ART STUDIO/福岡)
「Δ DELTA Group EXHIBITION」(WALD ART STUDIO/福岡)
2017「編んだものたち」(喫茶ムムム/別府)
2016「第 4 回炭都国際芸術祭」(大牟田)
「アートキューブ 10 人展」(博多阪急)
「下線部のこたえを求めよ」(FUCA/福岡)
2015「FUCA EXHIBITION Vol.6」(FUCA/福岡)
2014「FUCA EXHIBITION Vol.5」(FUCA/福岡)
「シゲキバアルテ vol.8」(シゲキバ/福岡)
2013「NIIGATA オフィス・アート・ストリート」(新潟)
「ART CUBE 」(博多阪急 正面玄関 1F ミニショーウィンドウ)
2012「PickupArtist 展 vol.2」(アートプラザ/大分)
「アートマーケット vol.13特別展示」(アートプラザ/大分)

2011「オープンアトリエ(清島アパート/別府)

「池田ひとみと平川渚の『糸はびこりけり』」(清島アパート/別府)

「全国アート物産展 !!」(恵比寿 NADiff a/p/a/r/t)

2009「アブラウリ日和 _1」(なかの ZERO 本館地下 2F 展示ギャラリー)

2008「YOKOHAMA ART & HOME COLLECTION」

2007「第 8 回 SICF」(スパイラル 東京)

2006「WORM HOLE episode1」(magical,ARTROOM /六本木)

「GEISAI#10」(東京ビッグサイト)

2005「GEISAI#8」(東京ビッグサイト)

コレクションや受賞歴

2005「GEISAI#8」(東京ビッグサイト) hiromi yoshiiスカウト審査員賞

レジデンス等

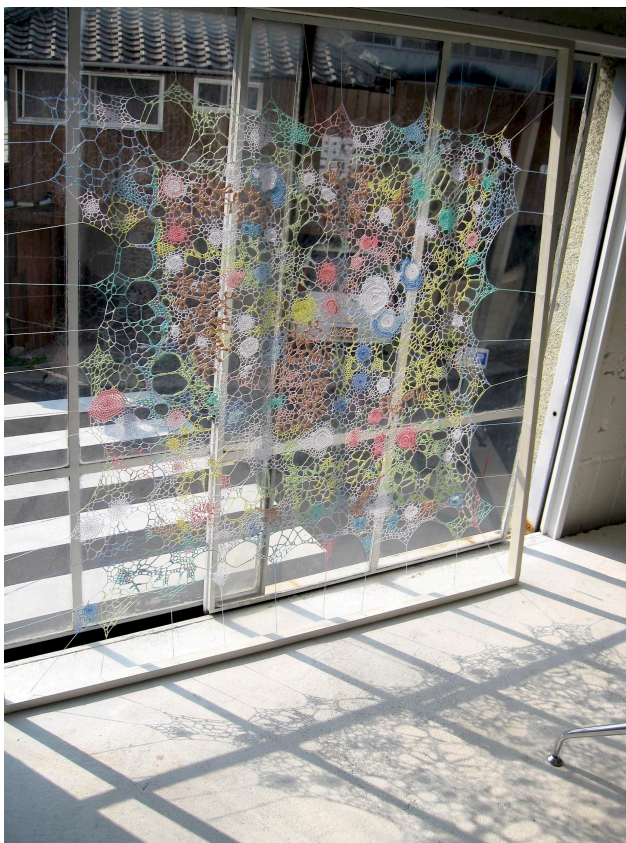
2018「鴨江アートセンター制作場所提供事業 アーティスト・イン・レジデンス」

2014「FUCA インキュベーションプログラム」(福岡)

2011-2013 年度清島アパート利用者(BEPPU PROJECT/大分県別府市)

<参考画像>

画像01



「編み目に風留まる」

2012年

100cm×100cm、糸をかぎ針編み、木枠

画像02



「編み目に風留まる」(部分)

2012年

100cm×100cm、糸をかぎ針編み、木枠

画像03と画像04



インスタレーションビュー「大きな編み目と小さな編み目」(Wald art studio、2019年)
サイズ可変 糸をかぎ針編み、木枠

キュレーター
藤本 真帆
FUJIMOTO Maho



熊本県出身、福岡市在住。2012年より福岡県立美術館学芸員。福岡の現代美術およびドイツ近代美術を中心に調査・研究、企画に取り組む。現在、福岡県立美術館の大規模リニューアルの構想を担当。主な企画展:「古川吉重 1921-2008」(2014)、「紙、やどる形」(2015)、「ARS/NATURA —「風景」の向こう側—」(2017)。ほか、ワークショップ「<紙>で作ろう言葉の標本箱！」(2015)、ワークショップ「蓮の葉ぬいぬい」(2016)を作家と共同企画。

◎ギャラリー港民館
「データとして定義できない記憶」
2019/11/16-24 (11/20休み)

アーティスト
ユン・ピルナム＋キム・キョンファ(コラボレーション)



左 ユン、右 キム

ユン・ピルナム
YUN Pil-nam

1968年 韓国釜山出身
東亜大学芸術大学 繊維美術科卒業
東亜大学芸術大学大学院 応用美術科修士卒業

個展
8回

企画展

2018年 BUSAN RETURNS (F1963 韓国釜山)、2016年 釜山ビエンナーレ「Hybridizing Earth, Discussing Multitude」(F1963 韓国釜山)、2016年 Net to Net・キムキョンファ&ユンピルナム2人展(テチョンギャラリー 韓国釜山)、2014年ムービングトリエンナーレ(釜山旅客ターミナル韓国釜山)、2013年「価値の再発見」展(金海クレイアーク 韓国金海)、2010釜山ビエンナーレオルタナティブスペース連携展示「本能の進化」(アートファクトリー多大浦)、2009年「感覚の論理」展(釜山市立美術館、韓国釜山)、2009年「blue Dot」アジア全(芸術の殿堂 韓国ソウル)、2008年釜山市立美術館企画展「Boogie-woogie」(慶星大学美術館 韓国釜山)、2007年 大邱青年ビエンナーレ(大邱文化芸術会館 韓国大邱)など

キム・キョンファ
KIM Kyung-hwa

1969年 韓国晋州出身
慶星大学芸術大学美術学科(立体造形専攻)卒業
ソウル大学大学院 美術大学彫塑科 修士卒業

個展

2014年 所望セット(トタガギャラリー 韓国釜山) 以外5回

企画展

2018年 光州ビエンナーレ「想像された境界に」(ACC 韓国光州)、2018年 BUSAN RETURNS (F1963 韓国釜山)、2017年 国際リサイクルアート展(生谷資源循環センター 韓国釜山)、2016年 広島アートセンターAIR(広島 日本)、2016年 アート釜山「アートアクセント」(ベクスコ 韓国釜山)、2016年 Net to Net・キムキョンファ&ユンピルナム2人展(テチョンギャラリー 韓国釜山)、2015年 智異山プロジェクト(ソンシムウォン 韓国山清)、2014年 第3回国際リサイクルアート展(釜山市役所 韓国釜山)、2013年「鞆の浦 de ART」(福山鞆の浦 日本)、2012年 釜山・ハンプルク国際美術交流展(旧釜山鎮駅 韓国釜山)、2011年 WATAGATA ARTS FESTIVAL(冷泉荘ギャラリー 日本福岡)、2011年 九州アートゲート(博多駅 日本福岡)



2016年 共同制作作品



キュレーター
シム・ウヒョン(Woo Hyeon SIM)



1972年 韓国蔚山生まれ

大邱芸術大学 写真映像学科 芸術写真専攻 卒業、ソウル 祥明大学 芸術デザイン大学院 修士課程 単位取得後退学、九州産業大学 大学院 写真学科 卒業(博士前期過程)、九州産業大学 大学院 芸術研究科 造形表現専攻(博士後期過程) 単位取得後退学

個展 6回

企画展およびグループ展30回

主な展覧会企画: 韓国16代大統領記念館展示ディレクター(2010年～)、筑後アート往来AIR“再会”展～おかえり筑後～(2018年～)、Yahoo! JAPAN東日本大震災アーカイブ展(2013年東京 Nikon Gallery、釜山カトリックセンター)、WATAGATA Arts Festival(2011年～韓国釜山と福岡の複数会場)、Artment2009(冷泉荘)、Asia photographer's Gallery(2006～2010年)など

現在 日韓アートプロジェクトであるワタガタアートネットワーク運営委員(2010年～)、ギャラリー港民館運営(2019年～)、筑後市九州芸文館AIRコーディネーター(2015年～)、九州産業大学造形短期大学部講師(2014年～)

宮本 初音
MIYAMOTO Hatsune



1962年生まれ。1988年九州大学卒
福岡市在住

ART BASE 88 代表。福岡市を拠点に1980年代より街なかのアートプロジェクトやアートマップ制作、国内外アーティスト交流事業などを企画運営。

携わったプロジェクトに「ミュージアム・シティ・天神」「別府現代芸術フェスティバル2009 混浴温泉世界」など。

2005-2009年（財）福岡市文化芸術振興財団「ギャラリーアトリエ」を企画運営。

2010年から福岡と釜山間のアーティスト交流事業「WATAGATA福岡プサンアートネットワーク」を開始、同名義にて2014年「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ」に参加。

2011年3月から博多阪急 Art CUBE でのアート作品展示コーディネーター。

2013-2018年度 福岡県文化賞選考委員。

2014年 書籍「九州沖縄アーティストファイル」発行（Fukuoka Art Tipsとして）

2015-07年度 九州芸文館を会場としたレジデンス事業「筑後アート往来」（九州芸文館芸術文化拠点性発揮事業）ディレクター。

2018年度アーツプロジェクトスクール福岡校事務局（主催 文化庁、コマンドN）

2019年11月にアート企画「秋の種2019」を企画運営

<http://artbase88.wordpress.com/>

連携企画

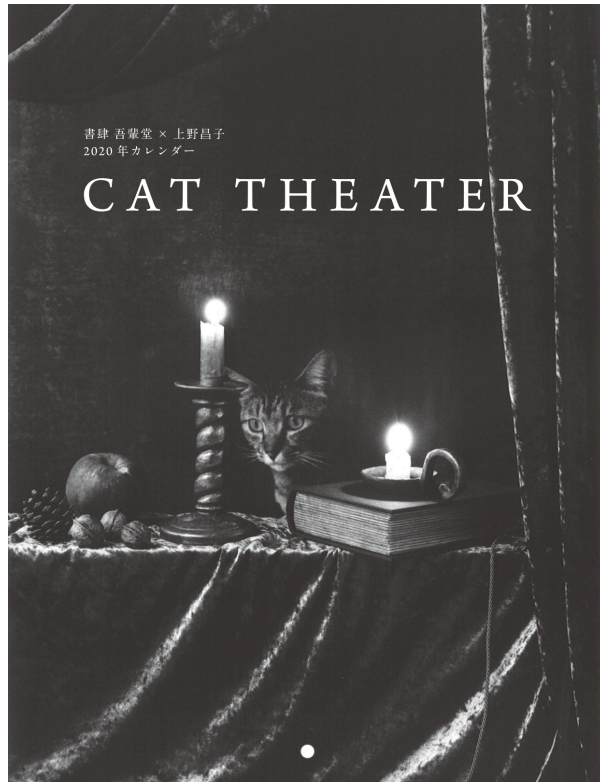
◎書肆 吾輩堂

「上野昌子写真展 CAT THEATER」

2019/11/16-12/8（月木休み）

<https://wagahaido.com/>

※最新情報は公式サイトを確認



内容

吾輩堂が毎年作成しているオリジナルカレンダーの原画となった写真を展示・販売。合成一切なしの銀塩写真で「四大元素」をテーマに、作家がまるで劇場の中にいるように愛猫を撮影したもので東京以外では初の個展となる。

大久保 京
OOKUBO Miyako

猫本専門書店 書肆 吾輩堂 店主



福岡市生まれ、在住。北九州市立美術館、NPO法人創を考える会・北九州勤務を経て、2013年2月22日、日本初の猫本専門書店として開業。当初はネットのみの販売だったが、猫ねこしい物件を猫的嗅覚で見つけ、2018年12月福岡市内のひっそりとした猫路地に念願のリアル店舗をオープンさせる。

昭和の長屋を改築した店内には1Fに古本 & 新本が並び、2Fには雑貨を配置。作家の作品展示も行い、また店主の趣味でマタタビ代わりにアルコールも提供。

猫と本を愛する人に、猫になりきって訪れていただきたい店づくりを目指している。

書肆 吾輩堂
〒810-0044 福岡市中央区六本松1-3-13
tel/fax 092-791-1880
email: nekohon@wagahaido.com
<https://wagahaido.com/>

©Operation Table

「KUMA BRUT! 熊本からのアール・ブリュット」

2019/11/16-12/8 金土日オープン * 月～木は要予約

<http://www.operation-table.com/>

※最新情報は公式サイトを確認

キュレーター

真武 真喜子

MATAKE Makiko



北九州市生まれ。2003年まで北九州市立美術館学芸員、2010年3月まで国際芸術センター青森学芸員として勤務ののち、同年4月北九州へUターン。これまで企画した展覧会は「7th 北九州ビエンナーレ Art for Sale アートと経済の恋愛学」(2002年)、「国際芸術センター青森 春のアーティスト・イン・レジデンス エフェメラルー遍くひとつの時」(2007年)など。共著に『白川昌生フィールド・キャラバン計画へ:2000-2007』(水声社、2007年)、『高松次郎を読む』(水声社、2014年)。元動物病院の自宅を改造し、2011年4月アーティスト・イン・レジデンス/オルタナティブ・スペース Operation Tableを開設、展覧会やパフォーマンス、ライブ、セミナーを開催している。

◎対馬アートセンター
「星とごはんの狭間で」
2019/11/23 (土) ~ 12/22 (日)

開館:土・日 13:00-18:00
(別日希望の方は要事前相談) T E L: 080-2427-1103

会場: 長崎県対馬市厳原町田淵828
連絡先: postmodern09@yahoo.co.jp(担当:小栗栖)



アーティスト
キム・ジナ／Jina Kim／김진아



キム・ジナは自身の「学ばされた日常」について考察し、作品を制作している。彼女は無気力について、学ばされた出来事の繰り返しが累積された疲労感であると同時に、自覚することでその状態を抜け出せる特別な出来事(変曲点)であると考えている。

最近では、ソウルのサイアートスペース(CYART SPACE)において、「発展に関する義務感と移動」をテーマに、個展『Ground, up, ready』を開催した。同展では、水耕栽培システムと生きている農作物、ドローイング作品を展示した他、韓国の伝統的な農楽をルーツとする現代音楽サムルノリのパフォーマンスを行った。このように、キム・ジナは無気力とエネルギーの狭間にある変曲点について 考察し、これを彫刻、映像、インスタレーション、パフォーマンスといった多様な媒体を活用して「視覚芸術プロジェクト」として展開している。

<http://kima15896.wixsite.com/jinart>

生年、生地 1989.1/29 ソウル

最終学歴等

キム・ジナは国民大学校立体美術学士及び同大学院修士を卒業。国内外の多数の企画展に招待されており、2度の個展を開催した。現在、韓国を拠点にアジアの各地で精力的に活動を展開している。

2017 M.F.A. Graduate School of Kookmin University, Seoul, Korea

(An) artistic study on the synergistic relationship between helplessness and vitality :Focused on this author's art work

2012 B.F.A. Sculpture, College of Fine Arts, Kookmin University, Seoul, Korea

展覧会歴 個展、グループ展 コレクションや受賞歴

■ Solo exhibition

2019 <Ground, Up, Ready>, CYART SPACE, Seoul

2018 <出家外人 : Layer of Useless >, Seoul Art & Healing hub, Seoul

■ Main award / Invitation

2019 <Content Creator>, art center nabi/ KOCCA

2018 < CYART DOCUMENT PRIZE>, selected artist, CYART SPACE

2018 < The First Arts Support >, , Seoul Foundation for Arts and Culture

■ Major group exhibitions

2019

<Tsushima Art Fantasia(upcoming)> Tsushima art center, Tushima, japan

<An Experiment on Forests(upcoming)>, gallery imazoo, Seoul

<3day>, Space illi, Seoul

2018

< The day of Bathing with art .Haenghwa 60th birthday bath-public sympathy >, Haenghwatang, Seoul, Korea

< KWAF, Korean Woman Art Fair>, Post Territory Ujeongguk, Seoul

2017

<Pecha cucha link up project 1 >, Art Space Tetra, Fukuoka, Japan

<The C.A.T project III: Expanding Relationship >, Art Hall GONG, Seoul,Korea

■ Major community art project planning and progress

2018- 2019 <Blessed Stamp Donation Relay>, Coffee&bar vokgili, Seoul, Korea

2018 < small talk of the Neunggok Market >, space yougilsa, gyunggido, Korea

レジデンス等 対馬アートファンタジア2019



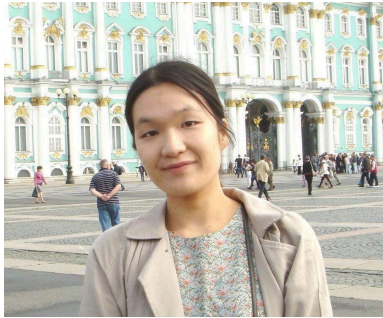
@Jina Kim

〈放浪者の農場〉

2019年

パイプ、水、モーター、作物、LED／インスタレーション

キュレーター
小栗栖 まり子
OGURISU Mariko



対馬市観光交流商工部博物館建設推進課 学芸員。
1985年生まれ、兵庫県出身。国民大学校(韓国)修了後、2015年から学芸員として働く。現在は学芸員として対馬博物館の建設業務に従事。韓国の地域で繰り広げられるアートシーンのリサーチや両国でアートプロジェクトの企画を行い、地域とアート、そしてミュージアムの新しい関係性を模索している。おもな企画展＝「九州産業大学創立60周年記念 美術館特別所蔵品展『名品は師なりー教育用標本としての芸術コレクションー』」(九州国立博物館/2018)、「パリ→池袋→福岡・モンパルナス -芸術家が街に出る-」(九州産業大学美術館/2018)、「歴史にすわる part6 -素材で感じるイスの世界-」(九州産業大学美術館/2017)ほか。